

## 新しい指導者協会のあり方

～会長就任に当たって～

(宣射) 瞳 順慶

会長 藤島勝雄

先ず以って、本協会第6代坂井敏夫会長が去る6月23日ご逝去されましたことをご報告いたします。

会長在任時、「名称」「副会長」「引当金」「HP」等の、懸案事項解消に尽力された功績は誠に顕著であります。会員の皆様と共に、心からご冥福をお祈りいたします。

過日開催されました、平成26年度定期代議員会におきまして、第8代会長に推挙されました。

日本のスキー界の大先達であります柴田先生をはじめ栗林先生等、錚錚たる歴代会長の後を継ぐことは、身の引き締まる思いであります。

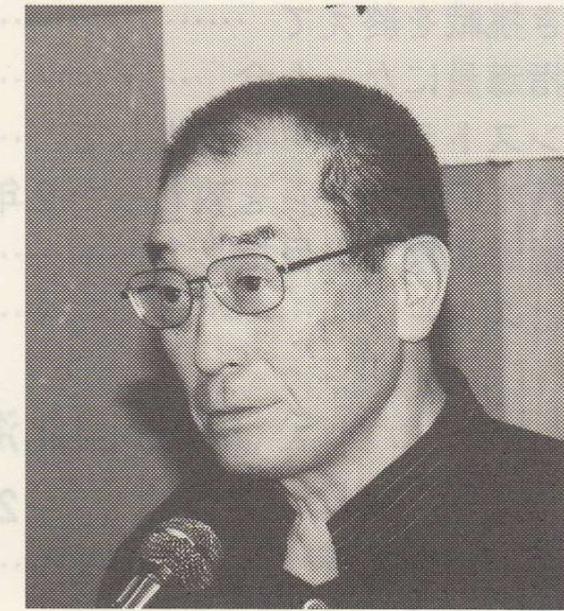
諸先輩の築かれた歴史の、益々の充実と発展に努力する所存であります。

役員をはじめ会員の皆様のご協力をお願いいたします。

現在のスキー界を取り巻く環境は、経済不況、温暖化、少子化等非常に厳しいものがあります。

昭和34年栗林先生に「バインシュピール技術」をご教授いただき以来、50余年に亘ってスキーに関わってきた私にとっては、身を削られる思いであります。

本協会は、健全なるスキー界の発展に寄与するため「スキーの普及発展」「会員相互の親睦と研究交流」の目標を掲げ、指導者協会の集い開催と機関誌「シュピール」の発刊を中心に活動を開催して参りました。集いはローテーション表を作成し、恒常的開催と開催地区の活性化を図り、今年7月の釧路開催で、26回を数えるに至りました。シュピールは研究、特集、そして検定随想と多岐にわたり、全国の指導員仲間から好評を得、加えて平成18年HPを立ち上げ、一般スキーにも情報を発信しているところです。



しかし、昭和27年「北海道一般スキー指導員会」として、創立以来61年の長きに亘り、諸先輩が拘わってきた「親睦団体」としての活動に、限界を感じているところでもあります。

昨年、北海道スキー連盟の公益法人化移行に伴う改編・新体制の道連教育本部から、本協会に「スキー界の活性化のために協力して欲しい」との要請がありました。これを機に、枠に拘わらず幅広い活動を志向し、今年度は男性60歳以上、女性50歳以上を対象に多くの特色を備えた、「新生・ベテラン研修会」を協力開催することにいたしました。

急速なスキー技術の進歩、指導者の高齢化が言わされている今、対応する指導法の研修がベテラン指導員にこそ、必要であろうと思われます。

冷え込んでいるスキー場へ、多くのスキーイヤーに足を運んでもらうため、ベテラン指導員の方々も率先してスキー場に出向くキッカケになれば、とも考えております。

新しいスキー技術を理解して、指導能力を高め「新しいスキーを創造」することは、本協会の本来の目的に適うものと考え、役員、会員の皆様の絶大なるご支援とご協力をお願いいたします。